

2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

●会長 中島 祐爾
●幹事 緒方 公一

 No.1834 令和 05 年 10 月 04 日 第 11 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org



世界に希望を生み出そう



■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「四つのテスト」

(ソングリーダー 古田哲朗)

■熊本東南ロータリークラブの歌

「Joyful And Good」

(ソングリーダー 古田哲朗)

■来訪者紹介 (会長 中島祐爾)

卓話者 米山奨学生 ソウゼン 君
カウンセラー 熊本南RC 告坂和紀 君

■今月の誕生日祝



10月誕生祝

【会員】			
内野 隆行	会員	10月19日	
松本 一也	会員	10月24日	
山本 浩之	会員	10月8日	
出先 敬明	会員	10月7日	

【配偶者】			
松本 照代	様	10月8日	
村瀬 京子	様	10月9日	
山本 文香	様	10月11日	
山本真穂子	様	10月13日	
島村富美子	様	10月18日	
中島 聖子	様	10月22日	



■会長の時間 (会長 中島祐爾)

スマイル

ロータリーでは会員自身、会員の家族、親族、会社などで喜びやお祝い事があった時に「スマイルボックス」に寄付を入れる習慣があります。もちろん個人の自発的な寄付行為であって、強制ではありませんがうちのクラブでは一人年間2万4千円を目標にしています。

この「スマイルボックス」への寄付金は、通常、社会奉仕活動資金として使用されますが、クラブによっては米山奨学金の特別寄付、ロータリー財団への寄付など、寄付した本人が寄付の用途を指定できるようにしてるクラブもあるそうです。

スマイル用紙に内容を記入し、親睦スマイル委員のメンバーが読



み上げてますが、たまにはスマイルした本人が少し話を付け加えながら読み上げるというのいいのではないのでしょうか。うちのクラブでも誕生日のお祝い、結婚記念日のお祝いのお返しにスマイルボックスへの寄付をされる方も多いので小さい頃の思い出や、結婚決めた話などスマイル報告で聞いてみたいです。全員だと時間の問題があるのでその日のスマイルから代表で一人だけでもどっでしょう。

さて「スマイルボックス」の歴史は意外と古く、日本では1936年(昭和11年)から始まったと言われてます。大阪ロータリークラブでは、例会の早退、遅刻、ロータリーバッジの非着用などに対する「ペナルティボックス」が以前からあったそうですが、1936年7月当時の社会奉仕委員長だった方が「ペナルティボックス」をやめて「ニコニコボックス」に変更したそうです。具体的には会員自身、会員の家族、会社での嬉しかったことなどにニコニコしながら披露し、皆で喜びを分かち合うこととまた失敗したことを面白おかしく披露し、苦笑いの中で親睦の増進に役立てること。そうして集まったお金を主に奉仕活動に使うことがルールだったそうです。

その2か月後1936年9月東京ロータリークラブの会員が、クラブ会員に「東京ロータリーホーム(関東大震災孤児の収容施設)の「子供たちを慰める会」への費用捻出の寄付をお願いし、例会で箱を回したそうです。その後こうした試みが「ニコニコボックス」「スマイルボックス」などの名称で日本各地のロータリークラブに広まったそうです。

■幹事報告 (幹事 緒方公一)

■来信案内

1) 膳所和彦 ガバナー、井上邦宏 青少年奉仕部門長、馬メ昌美 青少年交換委員長より、2023-2024年度 地区青少年交換事業説明会の案内。

※参加希望の方がいらっしゃいましたら、熊本東南RC事務局までお知らせください。

日時 2023年10月15日(日) 13:00~15:00

開場 阿蘇熊本空港ホテル エミナース 会議室

■クラブより

1) 第1回臨時理事会報告。



■今後の行事

2023	10月14日(土)	ロータリー財団・会員 増強合同セミナー	大分県日田市	日田市大山文化 センター
	彌富照皇			
	10月22日(日)	日田RC創立60周年 記念式典	大分県日田市	マリエールオー クパイン日田
	中島祐爾、前田日出夫、彌富照皇			
	10月28日(土)	九州4地区合同公共イ メージ向上イベント「ボ リオ根絶チャリティー バザー」	大分県日田市	大分駅前、他
	前田日出夫、彌富照皇			
	11月13日(月)	世界ポリオデー×子ど もたちにクラシック 音楽を	熊本県熊本市	熊本市民会館シ アーズホーム夢 ホール
	彌富照皇(案内中)			
	11月25日 (土・日)	第39回ローターアクト 年次大会	熊本県熊本市	熊本B.9、コン フィホテル
	杉本整哉			

■ロータリーの友紹介

(雑誌・会報担当 松尾 浩)

今月は米山月間です。

横書き

P5 会長メッセージ

P7～P14 若者の自立促す支援のカタチ

P19 2720 地区は 2023 年 20 名累計 486 人

P24～P32 2024 年国際大会開催地シンガポールの記事

P37 2720 地区関連右上 別府東 RC

縦書き

P4～P8

障害者雇用

P13 ごはんのお供 漬物について



■出席報告

(出席・プログラム担当 松田和成)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
09月20日	休会				
10月04日	44 (免3) 41	30 Zoom21			73.17

☆出席免除

10月04日 住江正治 島村徹男 志賀重人

■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 小竹 誠)



◎米山奨学生 ソウ ウゼンさん、告坂和紀様(熊本南RC) 2,000円



熊本南RCからやってきました米山奨学生のソウ ウゼンとカウンセラーの告坂です。本日は貴重な卓話の時間を戴き、ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひ致します。



◎沼田敏雄 10,000円
健康スマイル



◎内田信行 10,000円
誕生日お祝いありがとうございます。6回目の年男です。縁起が良い年と言われています。残り2ヶ月半の間にきっと良い事があると信じています。今後も7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目の年男を迎えられるよう頑張ります。



◎小野川善久 5,000円
昨日はゴルフコンペお疲れ様でした。家内は予想通りブービー賞で卵20個入っていました。さっそく朝食に半熟卵をいただいて大変美味しかったです。今度はオープン参加でコンペに出るのもいいかなと思っています。そうすれば、ブービー賞&取賞賞間違いないでしょう。打ち上げのラウンジでの満員御礼の感謝も込めてスマイルします。



◎村瀬直久 5,000円
カミさんの誕生日祝いありがとうございました。



◎宮川義行 4,000円
米山奨学生 ソウ ウゼンさん、卓話楽しみにしています。告坂様のご来訪歓迎いたします。本日は宜しくお願いします。

先日、相続漫才に出演しました。死んだ後、遺産相続でもめてる家族を心配してあの世から帰ってきて遺言書を残すという筋書きです。連れ子に相続権はあるのか？行方不明の子ども抜きに遺産分割はできるのか？などの相続についての疑問に答えるのが目的の漫才です。今回は主人公の友人役でしたが、本当は生き返る主人公役でした。昨年8月に上演の予定でしたが、相方の星野竜馬君が43才の若さで脳梗塞で本番1週間前に亡くなります。ばってん荒川ジュニアとコンビを組んで15年間熊本の漫才界をリードしてきました。昨年の9月に外部卓話をお願いしていましたが叶いませんでした。1年後に上演の運びとなり、同じ脳梗塞になりながら彼を想いながら出演出来たことを心から喜んでます。毎月1回、玉泉院植木会館で相続漫才を開催しています。御興味のある方は今後の準備も兼ねてのぞきに行かれて下さい。



◎山田公也 3,000円
米山奨学生カウンセラー 熊本南RC 告坂さん、ご来訪ありがとうございます。本日の米山奨学生 ソウ ウゼンさんの卓話を楽しみにしております。



◎中島祐爾 2,000円
本日卓話の米山奨学生 ソウ ウゼンさん、よろしくお願ひします。カウンセラーの告坂様もお世話になります。



◎松元将潔 2,000 円

昨日はゴルフ初参加で内田会員、福井会員と楽しくラウンドが出来ました。本日は歓迎会ありがとうございます。宜しくお願いいたします。

■米山奨学生卓話

(米山奨学生 ソウウゼン 君)

「日本での留学生活」



卓話者：ソウウゼン 君 カウンセラー：告坂和紀君(熊本南RC)

卓話 | 日本での留学生活
Presentation 2023.10.04

慶城大学 芸術学部 デザイン学科 Cang Yuqian

大連はどこにある？



自己紹介

名前	丛羽茜 (ソウウゼン)
出身	中国・大連
職業	慶城大学・芸術学部・デザイン学科 4年
趣味	写真撮ること
好きな食べ物	メロン、寿司、チキン南蛮
苦手な食べ物	イクラ、紅しょうが
休日の過ごし方	写真を撮る、遊覧船を乗る、ドラマを見る



海外での生活はどう？

- | | |
|---------------------|---------------|
| 習ったこと | 思ったこと |
| ① 永遠者がそのまま死ぬ | ① 子どもの分給と給食 |
| ② 金貯金をやる | ② パルートを借りにくい |
| ③ 浴衣がいい、秋祭りをしても買ってる | ③ 方言が聞き取れないこと |
| ④ 街での数字の読み方が違う | ④ 日本国語が話せない |



高専学校の体験



高専学校の体験



課外活動



課外活動



ハイエ編集2022 ボランティア7活動



■点鐘 編集 松尾 浩

素人にチャリティ開催は無理なのか？日本のアクトが導いた答え

投稿日：5月17, 2023 投稿者：rotarymasa



寄稿者：柿本知樹

(名古屋熱田ローターアクトクラブ、Walk in Blue 実行委員長)

ローターアクトに参加してから、ずっと考えてきたことがあります。「いつか自らの手で企画をして社会の役に立つ活動をしたい」2019年に入会してから、実に4年という歳月を経て、ようやくその願いが実現できました。そうして生まれた企画が、ファンディング型チャリティ「Walk in Blue」です。ただ、その実現までには長い道のりがありました。

＜海外のチャリティに出会い、衝撃＞

私が名古屋熱田ローターアクトクラブに入会したのは2019年7月のことです。ちょうど、その年の11月22～24日に上海での海外研修がありました。これがその後の転機となるのですが、私はこの研修へ参加できたことに運命を感じています。それというのも、コロナ禍になる直前の抜群なタイミングでの渡航でした。年明け以降なら飛行機は飛ばなかったかもしれません。登録期限が入会の翌月だったこともあり、もう少し入会が遅かったら私は上海へ行くことができなかったのです。そのようにして参加できた上海での研修は、私たちに大きな衝撃を与えました。その最たるものが、上海ローターアクトクラブが主催しているチャリティマラソン「RUN IN BLUE」です。これは、青いシャツを着て走るといったチャリティイベントで、参加費として集まった費用は支援金として用いられます。上海ローターアクトクラブでは子どもへの支援を行っていました。一つのローターアクトクラブが大規模な社会奉仕事業を開催するこ

とに驚きを持ったと同時に、人や社会の役に立ちたいという強い思いが感じられるイベントでした。日本から参加したメンバー全てが胸を打たれたはずで。

<海外のチャリティを日本へ輸入>

上海の研修へ参加したメンバーの一人が、このRUN IN BLUEに深い感銘を受けて、日本への輸入を決意します。国際ロータリー第2760地区ローターアクトによる主催で、2021年11月23日に愛知県豊田市でRUN IN BLUE JAPANを開催しました。これにより集まった支援金67万円は、発達障がいのある子どもを支援している豊田市子ども発達センター「ひまわり」へ寄付されました。実際に、参加した方から「身体を動かして、健康にも良くて、支援ができるなんて素敵です。来年も参加したい」との感想をいただきました。嬉しくて有難いお言葉で、やってよかったと実感しました。しかしながら、このRUN IN BLUEは毎年開催していくには高いハードルがあり、課題を残す結果になったのです。

<課題を乗り越え、リメイクへ>

その課題というのは大きく分けて二つあります。一つは運営面での負担です。開催前に公園の管理団体にご挨拶へ行つた際、次のことを言われました。「素人がマラソンを企画するなんて無理ですよ」その時はただただ、えっ!?!という気持ちしかなかったのですが、実際にやってみたところ、許可申請が煩雑であったり、ルートの中途中でスタッフが立って誘導が必要であったり、必要スタッフ数も膨大で、走るペースはみなさんももちろんバラバラ。てんやわんやでありました。二つ目は、「取り組みは凄く素敵だと思いますが、走ることはできない」という声が非常に多かったことです。せっかく気持ちがあるのに参加できないことは残念なことです。このような課題もあり、第2760地区ローターアクトは2回目の開催を断念。しかし、せっかく日本へ輸入したわけですし、このチャリティは次世代へと継承していきたいという気持ちが私にはありました。運営負担を最小限にし、老若男女誰でも参加できるかたちでモデル構築ができないかと私は頭を悩ませました。そして、答えが浮かび上がったのです。「そうだ、歩けばいいじゃないか!」歩くようにすれば、みなさん同じペースです。その中に誘導スタッフがいたら、スタッフも一緒に参加できる上に、途中の案内人も必要ありません。走るのと違って、歩く場合は必要な許可も簡単です。歩くだけなら走るよりも参加できる人はずっと増えるはずで。そういう経緯で、チャリティのリメイクを考案し、企画へと移していきました。この企画は、名古屋熱田ローターアクトクラブの単独主催として、夢の実現へと向かって動き出します。

<持続可能な開催モデルの構築>

Walk in Blueの企画にあたって、私が特に意識したのは、ずっと続く取り組みにすることです。その上で気を付けたポイントが3点あります。

1. 開催費用を全額、資金調達すること：これまで名古屋熱田ローターアクトクラブの事業は、スポンサークラブの支援に依存してきました。そこから脱却し、ファンドレイジングでの資金調達を決意します。
2. 必要経費を最小限にすること：今回のWalk in Blueでかかった費用のほとんどは、青シャツ100枚と記念誌100部の印刷費で全体の80%ほどを占めます。必要経費をコンパクトにすることは、資金調達のハードルを下げることに繋がります。

3. 寄付金は開催費用以上にすること：寄付金が開催費を下回れば、開催費を全額支援した方が有意義だと感じます。今回は開催費の128%にあたる231,000円の支援に成功しました。さらに、ここから持続可能な取り組みにしていくための「仕掛け」を用意しました。それは、集まった参加費の70%を寄付金とし、残った30%を次回の開催費へ回すということです。今回は参加費33万円が集まりましたので、次回には99,000円の予算が手元にある状態で始まります。70%としたのは、開催費の100%を上回る確実なラインだと判断したことからです。これを順繰りするすることで、補助金に頼らない半永久的に実行可能な社会奉仕事業モデルが構築できます。

<ファンドレイジングの実施>

さて、資金調達をするにあたって利用したのはクラウドファンディングでした。これで当初は全額開催費用を調達しようと考えました。しかしながら、なかなか調達は伸び悩み、結果的に開催予算の半分ほどしか集まりませんでした。実行に移せないかもしれないという現実と向き合い、数日間はちゃんと眠れなかったです。とにかく何かアイディアは無いかと必死に考え、出した答えは資料を持ってスポンサーになりうる方へプレゼンテーションに行くことです。資料と想いを掲げて挑戦したところ、無事に開催できる金額が集まりました。集まった瞬間は15分ほど、呆然と立ち尽くしたのを覚えています。

<支援にかける想い>



寄付金交付式

私は日頃からNPO活動に興味を持っていて、それもあって支援に対して想いがあります。地元地域で人や社会のために熱心に頑張っている方々を知っています。受理した寄付額の範囲でやりくりして、大きくない金額であったとしても、できることはたくさんあると信じて努力しているNPOを私は見してきました。

そこで、選んだ支援先というのは、名古屋市中で長年環境保全に取り組んでこられたNPO法人「藤前干潟を守る会」です。名古屋熱田ローターアクトクラブもこれまで環境活動に熱心に取り組んできたこともあって、シンパシーを感じました。同会の理事長は、驚くことに30年環境保全に取り組まれてきた方で、支援金は子どもたちへの環境啓発活動に充て、干潟を守っていく継承者を育てるために使用されると聞きました。そのような素晴らしい活動に寄付できたこと本当に嬉しく思います。

<地域団体と繋がるクラブ>

このようにして、名古屋熱田ローターアクトクラブはNPO法人「藤前干潟を守る会」と関係を持つことができました。寄付金を届けることができたことに加えて、活動先として私たちはボランティア参加することも可能です。年に2度ほど大規模な清掃活動をしてもらえるそうなので、来年度は干潟の清掃活動へ参加します。Walk in Blueは来年度の開催が既に決定しています。支援先の団体については毎回変わります。将来的には名古屋熱田ローターアクトクラブと繋がる地域団体が増えていき、社会がより良くなるのが私の願いです。普遍的な価値を社会へ提供できるクラブをこれからも目指していきます。

ロータリーボイスより